Gerhard Richter BIRKENAU (Photo Version)

ゲルハルト・リヒター ビルケナウ（フォト・ヴァージョン）

Gerhard Richter, Birkenau CR 937F (Photo Version), 2015/2020
© Gerhard Richter 2024 (13032024)

ワコウ・ワークス・オブ・アートは 2023 年 7 月、軽井沢にゲルハルト・リヒターの作品を常設したスペース「Richter Raum （リヒター・ラウム）」をオープンしました。このリヒター・ラウムで、2024 年 5 月 25 日（土）から 9 月 28 日（土）まで、開館一周年を記念した特別企画『ゲルハルト・リヒター　ビルケナウ（フォト・ヴァージョン）』展を開催いたします。

《ビルケナウ》は、第二次世界大戦を経験したドイツ人であるリヒターがホロコーストという主題に長年にわたって向き合い続け、2014（15）年に集大成ともいえるかたちで完成させた作品です。ポーランド南部のアウシュヴィッツと隣り合う村「ビルケナウ」（ドイツ語で「白樺の谷」の意）には、大戦中、ナチスによって強制収容所が作られました。この収容所内で「ゾンダーコマンド」（同胞の遺体処理に従事した特別労務班）の一人によって密かに撮影された 4 枚の写真が、本作《ビルケナウ》のもとになっています。2008 年、フランス人哲学者・美術史家 G・ディディ＝ユベルマンの著書『イメージ、それでもなお』（2003 年）のドイツ語版が出版された際、リヒターはこれらの写真が掲載された新聞の書評を切り抜いて、スタジオの壁にかけました。6 年後、いよいよ制作に取りかかったリヒターは、これらの写真をカンヴァスに投影し、輪郭をトレースして写実的に描写した後、その上に絵具を何層も重ね、完全に塗りつぶしていきました。そうして完成した 4 点の油絵と同サイズのデジタルコピーを制作し、「フォト・ヴァージョン」と名づけます。

2024 年 2 月にポーランドのオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）に開館した「ビルケナウ・パヴィリオン」（Gerhard Richter BIRKENAU exhibition pavilion）では、《ビルケナウ（フォト・ヴァージョン）》と《グレイの鏡》が正対するように展示されています。今回リヒター・ラウムでは、《ビルケナウ（フォト・ヴァージョン）》とやはり《グレイの鏡》を展示するとともに、リヒターにとってのグレイという色を象徴する《グレイ》（1972）、具象イメージに絵具の層を重ねた例である《アブストラクト・ペインティング、渓谷》（1996）、《ビルケナウ》の下地に描かれたドローイングを彷彿とさせる《ハーンヴァルトの森》（2005）など、《ビルケナウ》との関連が見られる作品をご紹介します。

2022 年 2 月にはロシアによるウクライナ侵攻が、そして昨年 10 月にはイスラエルによるガザへの攻撃がはじまりました。戦闘は今なお続き、停戦の見通しはまったく立っていません。現在も繰り返される暴力を目の当たりにし、《ビルケナウ》をもう一度、今度はリヒター・ラウムで見せられないだろうかと考えたわたしたちに、リヒターが二つ返事で応えてくれ、今回の展示が実現しました。同時期、東京のワコウ・ワークス・オブ・アートではパレスチナの詩やアートを紹介する展覧会を開催します（6 月 29 日まで）。歴史から学び、暴力や戦争のない世界を実現することは不可能なのではないかと思いたくなる今日、《ビルケナウ》とパレスチナの両方に向き合うことで、そうした問題を考えるための出発点を得られるかもしれません。

会場：Richter Raum（リヒター・ラウム）
〒389-0102　長野県軽井沢町軽井沢 1323-1475
会期　：2024 年 5 月 25 日(土)－9 月 28 日(土)
開廊日：シーズンによって異なり、オンライン事前予約制となっております。
URL：https://www.richterraum.jp　Mail：office.rr@wako-art.jp